

小特集

情報化社会の ニューノーマル

編集にあたって

金子 格 | 名古屋市立大学

櫻 惇志 | (株) デンソーアイティラボラトリ

本小特集は結論を示すものではない。変化は始まったばかりであり、そのはじまりを記録にとどめることが目的である。

2019年末に中国で確認された新型コロナウイルス感染症は、2020年に日本でも蔓延し、我々すべての生活を根こそぎ変えつつある。緊急事態宣言により人の物理的な移動や接触という人間の社会生活の基盤が停止することになった。ICTはこれまでも我々の社会基盤を支えてきたが、物理的な移動や交流の代替となることが求められた。突如やってきた社会全体の新しい日常、ニューノーマルには、ICTによる社会の変化に比較的慣れ親しんだ本会会員もたじろがざるを得ないものだっただろう。

もちろん、変化は始まったばかりであり、もっと広範に精密な議論を行うべきだろう。しかし状況はめまぐるしくかわっている。日経平均を確認すると2月には最高値に近い値を示し社会はまったくその影響を感じていなかったが、3月には10年来の底値をつけ、この原稿を書いている6月には再び最高値

近くを回復している。二度と戻ることがない現時点でのムードを記録するため、あえて拙速を恐れずに小特集をまとめた。

第1章は、本会全国大会におけるバーチャルリアリティ（VR）を使ったイベントの報告である。例年参加者3,000人、講演数1,000を超える大規模な大会を急遽オンライン開催したことはマスメディアでも注目を集め、すでに5月号で報告させていただいた¹⁾。今回は、その大会中、本誌編集委員会が開催した『先生、質問です』というイベントの様子を報告させていただく。このイベントは中高校生や一般の方に参加してもらい質問を受け付ける人気コーナーである。実はこれをZoomのような通常の会議システムではなく、VR空間で開催した。詳細は記事を読んでもらいたいが、実施してみると例年同様多くの参加者を集めて大成功であった。今回は試行的に行ったにすぎないが、VRによるリモート会議にも今後どのような可能性があるかを考える材料としていただきたい。

第2章は急遽始まったオンライン教育化にさまざまな立場でかかわった先生方にご報告いただく。2020年2月29日に安倍総理から全国の小中高校の休校の要請がなされ4月にはほとんどの大学も休校となった。その際にできるかぎりオンラインで教育を続けることが要請され多くの学校で急遽オンライン教育への取り組みが始まった。大変ご多忙な中6人の先生に短い「現場のレポート」をお願いした。その際ただ大変だったというだけでなく、できれば今回たまたま得られた経験として今後も活用できると思われる体験があれば紹介してほしいとお願ひした。

やむなく始まったオンライン授業を美化する目的ではないことは言うまでもない。現場は阿鼻叫喚の様相であったことは明言しておかねばならない。しかし、編集子としては教育者がどこを目指し、何を達成したかという記録がより有益だろうと思ひ、可能ならそのような内容をご紹介いただくようお願ひした。

ご寄稿は、できるだけ多様な分野の先生にお願ひした。以前から知っていてご寄稿をお願いした先生も、SNS上でたまたまお見掛けした先生も含んでいる。さまざまな教育の局面でどのような課題がありどう対応がされたか、臨場感を持って現場の想ひを感じていただけるよう願ひしている。

第3章は、企業におけるリモートワークへの関心が高まっていく状況についてリモートサポートを提供する企業にご寄稿をお願いした。3月の段階でも企業のリモートワークへの関心は高くなかったが事態の悪化を受けて急激にリモートワークが始まった。その状況に接した立場からさまざまな調査結果を含む大変有益な報告をいただく。このような貴重な情報を提供していただいたことに感謝したい。

新型コロナウイルスの根本的な対策はむずかしく今後も感染予防に万全を喫しながらどれだけ正常な文化、経済活動が行えるかチャレンジが続く。本会では本小特集を含め、新型コロナウイルスの対策に役立ちそうな学会提供コンテンツを調べ、無償ダウンロード閲覧可能としている²⁾。ほんのわずかなことでしかないが、それでも多少役立つことがあれば幸いである。

参考文献

- 1) 岡部寿男, 中沢 実: 情報処理学会第82回全国大会 実録 緊急オンライン開催, 情報処理, Vol.61, No.6, pp.548-551 (June 2019).
- 2) covid19対策 情報処理学会 オンライン会議・リモートワーク・遠隔授業支援ディレクトリ, <https://www.ipsj.or.jp/magazine/covid19-support-directory.html>

(2020年7月2日)